

☆*****☆

ニッセイメール配信サービス（メルマガ）

【メルマガ内容】

DB基金（○） DB規約（○） DC（○）
厚年基金（○） 会計基準（ ） その他（ ）

【タイトル】第33回社会保障審議会企業年金・個人年金部会の開催
について

☆*****☆

平素より当社社業につき格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

厚生労働省は2024年3月28日、第33回社会保障審議会企業年金・個人年金部会を開催しました。今回の部会では、以下の議題で議論が実施されました。

- ①社会保障審議会企業年金・個人年金部会における議論の中間整理について
- ②「生活設計と年金に関する世論調査」について（報告）

当部会の資料は、以下の厚生労働省HPに掲載されております。

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_39183.html

1、資料1：社会保障審議会企業年金・個人年金部会における議論の中間整理（案）

- ・厚生労働省HP、資料1について、事務局より説明。今回示された中間整理（案）は、前回の第32回部会で示された中間整理（案）に、前回部会の委員意見による修正や、健全化法に関する追記等を行ったもの。
- ・事務局からの説明の後、部会長より、以下の趣旨の発言がありました。
「提示された中間整理（案）については、すでに委員の皆様からご意見をいただき、調整をしたところ。よって、部会としては、こちらをもって中間整理として取りまとめたい。（これに対して、委員より異論はなく了承された。）当該中間整理（案）は、本日委員の方から了承をいただけたということで、部会の中間整理として、厚生労働省のHP等で公表したい。そのうえで、本日は今後の進め方等について、委員より追加で意見・質問等あれば頂戴したい。」

※「社会保障審議会企業年金・個人年金部会における議論の中間整理」については、部会の後、同日付で最終版が厚生労働省HPに公表されました。

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_39285.html

2、委員からの意見 中間整理に関して（一部抜粋）

- ・健全化法に関して、今回の中間整理に基づいて、労使が話し合いを重ねることにより、解散又は移行という、健全化法が定めた内容が実現されていくことを強く希望する。中間整理に述べられているように、あくまでも経過的な措置であるため、なし崩し的な存続を認めたものではないということは、改めて確認をさせていただきたい。事務局においては、モニタリングを続けるとともに、労使の力になっていただき、進捗状況は部会で報告いただくことで、部会としての結論を出せるように議論できる機会を 2024 年度中にいただけるとありがたい。最終報告においては、具体的な流れをロードマップとして示すことが望ましい。
- ・春闘等で退職給付について交渉の対象となったという話はあまり聞いていない。人々の物価感が増えているのは事実だと思うので、インフレや賃金上昇は退職給付にどのような影響を及ぼすのか、将来起こりうる事態を想定して政策として備えておくべきことについて、そろそろ議論を始めてもいい時期かと思う。
- ・中間整理を見て、改めて検討課題が多岐にわたると感じた。今後更に検討を深める段階を迎えると思うが、その際、何を、いつまでに、といったところを意識する必要があると思っている。拠出限度額や i D e C o の加入者範囲などは税に関わる重要な議題であり、しっかりと議論するため早急に議論を本格化させて、例えば夏までに方向性を明確にするスケジュール感が必要ではないか。

3、資料2：生活設計と年金に関する世論調査（主な調査結果）

（厚生労働省HP掲載資料をもとに記載）

○調査項目

- ・老後の生活設計について
 - －何歳まで仕事をしたいか、またはしたか
 - －老後の生活設計の中での公的年金の位置づけ
- ・老後に向け準備したい、またはした公的年金以外の資産について
- ・私的年金制度の仕組みや役割についての認識について
- ・私的年金制度に加入している、またはしていた理由について
- ・私的年金で改善を希望する点について
- ・私的年金に加入していない、またはしていなかった理由について

- ・私的年金制度について詳しく知りたいことについて
- ・私的年金制度について参考にしたい情報源について

4、委員からの意見 生活設計と年金に関する世論調査に関して（一部抜粋）

- ・（資料2、4ページ）老後に向け準備したい、またはした公的年金以外の資産についての設問で、iDeCoよりも圧倒的にNISAの回答が多いので、iDeCoにはもっと頑張ってもらいたい。また、若い世代（20～30代）で、iDeCo対比でNISAの比率が高い。仮にこれが固定化されると、若いうちはNISAで資産運用を始めて、余裕が出てきたらiDeCoでも資産運用というのが一般的な考え方として定着する可能性がある。そうだとすると、40、50代でiDeCoを始めたとしても十分な資産の蓄積ができるような拠出枠を用意するか、キャッチアップ拠出を用意しておくか、そのような対策の合理性もあるのではないかと感じた。
- ・（資料2、4ページ）老後に向け準備したい、またはした公的年金以外の資産についての設問で、iDeCoよりも圧倒的にNISAの回答が多いことに関して。iDeCoよりNISAの方が情報へのアクセスも加入手続きの容易さも上回っていると感じる。NISAは証券会社のHPから簡単に加入できるが、iDeCoは拠出限度額等もあり、NISAほど簡単ではないと思う。手続きの簡素化や制度の広報周知がこれからの課題だと思った。
- ・（資料2、10ページ）私的年金制度について参考にしたい情報源について、厚生労働省の広報やセミナーの比率が高いので、やはり金融商品については信頼感が大事だと思う。金融経済教育推進機構等とも連携して、誰でも受けられるセミナーや情報発信を充実していくことが大切だと思う。

最後に、事務局より、次回の議題、開催日程については、追って連絡する旨の発言がありました。

***** メール配信サービス（年金NEWS・メルマガ） *****

運営：日本生命保険相互会社

〒100-8288 東京都千代田区丸の内1-6-6 日本生命丸の内ビル

団体年金部 団体年金コンサルティンググループ

TEL 03-5533-5572

E-mail kikinmadoguti@nissay.co.jp

日本-年基-202403-170-0008-D